



# 南陽消防団

【港区】

## 【消防団長・副団長】

吉岡団長は、南陽消防団の歴史、伝統を重視し、その豊富な知識と経験を持って団員80人に対し、リーダーシップを発揮、3人の副団長と連携して消防団の運営と団員指導にあたっています。

そのサポート役のひとりである橋本副団長は、神社や仏閣の純日本建築はもとより、名古屋城本丸御殿普請にも関わりをもつ伝統を引き継ぐ匠の宮大工をしています。詰所内部にはその技術が活かされた部材があります。



吉岡団長



橋本副団長



## 【南陽学区】

南陽学区は、名古屋市港区の西南に位置し学区内に新川、庄内川、日光川があり、名古屋港にも直接関わりを持つ地域です。伊勢湾台風をはじめ近年のゲリラ豪雨や台風等の水害のリスクに常に悩まされ、南海トラフ地震発生時には、津波により被害を受けると予想される地域でもあります。

また、学区面積の3分の1を田畑が占め、昔から日常的に野焼きが行われており、その不始末による出動も年に数回あるため、その関係者の方には根気よく注意指導をする必要がある地域です。

## 【消防団活動】

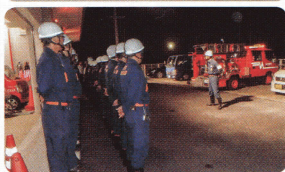
私共、南陽消防団の活動拠点は、5年前に新しくなった団詰所です。全団員80人分の活動用資機



広々とした会議室



ラッパ隊の練習風景



南陽消防団ポンプ車



南陽消防団照明車

材、各種教養等は、全てこの詰所で管理、実施しています。また、広い会議室を利用して、毎月2回、港区消防団連合会が誇るラッパ隊の練習場として活用したり、詰所前の屋外において各種災害への対応に向けた訓練、車庫内では、毎月の可搬式ポンプの点検をはじめ、ポンプ車・広報車・照明車計3台の車両整備をします。消防団員にとってこの詰所の存在は大きく、活動する上で大変励みとなっています。

一方、消防団員の中には、学区の「おやじの会」に所属する人も多く、学区内の児童及び生徒たちへ防火・防災啓発活動を行ったり、地域住民と和気あいあいとした雰囲気の中で住民主体の自主防災訓練を九町内単位で順番に実施するなど、日夜を問わず団員たちは、学区内の安心安全に備えています。

南陽消防団のモットーである「地域に愛され、親しまれ、頼られる消防団」を目指して、これからも団員80人の力を合わせ、学区と連携を深めながら様々な活動を展開していきたいと思っています。